公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団

第10回環境シンポジウム

第3部 NGO／企業の取り組み

基調講演③ 地球市民宣言と環境

サラヤ株式会社 代表取締役社長
ゼリ・ジャパン 理事長
更家 悠介氏

今日はプラスチック海洋汚染のお話をさせていただきます。海洋プラスチックごみが対馬に押し寄せてきています。なぜならば、対馬には海流が南から来ているからです。対馬は日本と韓国の間にありますので、くしの歯のように引っかかってしまうのです。

海洋プラスチックの汚染は、どんどん進んでいます。2050年には海のプラスチックごみの総重量が、魚の総重量を超えると言われています。プラスチックは物理的に小さくなっても最終的には分解しません。これをなんとかしないといけないということで、対馬市、関西経済同友会、サラヤ、関西再資源ネットワーク、ゼリ・ジャパンが「対馬モデル」研究開発連携協定を結びました。

対馬で何をするのか。漂流ごみを全部回収しましょう。回収したごみをエネルギー化して電気を作りましょう。島のバイオマス資源も使い、メタン発酵させて、メタンガスをエネルギーにしてやりましょう。海藻を植えて、一部の海藻を回収してバイオマス資源にしましょう。そういうプロジェクトをこれから2025年大阪・関西万博に向けて道筋をつけていこうじゃないかということです。

そこで、ブルーオーシャンパビリオンです。「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで万博が開催されます。ブルーオーシャンパビリオンをゼリ・ジャパンが出します。原研哉さんが総合プロデューサーになり、坂茂さんが建築設計をします。

パビリオンには、3つのドームがあります。エントランスは紙でできたドームで、水の不思議さについて展示します。真ん中のドームはカーボンナノチューブを使います。出口は、竹でできたドーム。できるだけ持続可能な素材を使って、パビリオンを作ります。

真ん中のドームがメインです。「球体オペラ」というテーマで、皆さんに感動だけではなくて、行動変容につながるようなビジョンを作ると、原さんはがんばっています。出口がつながるパビリオンにします。全国や世界の各地と結ぶような企画をやります。

これからは「経済なき道徳は寝言であり、道徳なき経済は退廃である」という時代です。こういう考え方を持って、地球市民の時代にサステナブルなエコノミーを実現するということをがんばっていますし、皆さんと一緒にやっていきたいと思います。

事業発表 ゾウと子どもとカップ麺

ボルネオ保全トラスト・ジャパン 理事
森井 真理子氏

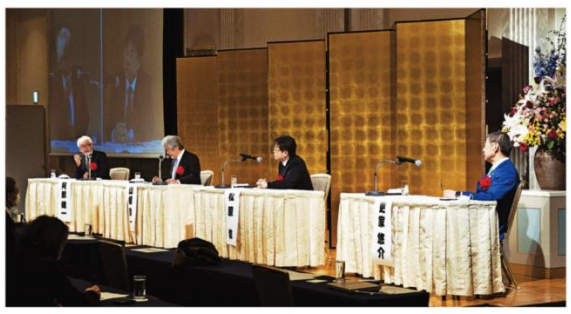
財団から助成をいただき、日本とマレーシアの子供をつなぐICT（情報通信技術）を利用した対話型遠隔教育をさせていただいています。2022年5月から8月にかけて4つの動物園を結び、3回連続ワークショップを行いました。

遠く離れた国の子供がICTで直接つながれるのは画期的なことでした。子供たちはICTを使いこなしているのに、大人は頭が固くてICTの利点を生かしきれていないと反省しています。今後も、アブラヤシ農園のため生息地を失っている野生動物、カップ麺などアブラヤシから採るパーム油製品を世界中で消費している現状を「知る」、自然環境も産業も異なる生産国と消費国の子供が直接「つながる」、彼ら自身が「一緒に行動する」ことを目指して活動していきます。子供たち同士の交流から新しいものが生まれることを期待しています。

パネルディスカッション

生物多様性とビジネスのつながりを強くするには

＜出席者＞
パネリスト 山極 壽一氏
松原 稔氏
更家 悠介氏
コーディネーター 阿部 健一氏



阿部 生物多様性とビジネスというテーマは、一見すると、遠く離れているようですが、深いところでつながっています。そのつながりを強くしていくには、どうすればいいのか、それを考えたいと思います。山極さん、どうですか。

山極 資源はどんどん使って減っていきますが、資本は蓄積していきます。資本主義は、資本を蓄積させずに投資していくわけですよね。環境危機や気候変動といったものが押し寄せてきて、これ以上投資して、われわれ人間の活動を拡大し続けると、もう地球が持たないという時代になっています。そのときに考え直さなければいけないのは、資本の扱い方です。資源は蓄積できませんが、価値は資本に転換できるわけです。だから、その価値というものを、もう一度考え直さないといけないということです。

農業、漁業を新しいビジネスに

阿部 松原さん、どうですか。今の山極さんの話を聞いて。

松原 実は、私も生態系を価値化するって、どういうことかをずっと考えてきました。結果として価値化を進めてきたのですけれども、それを全て貨幣で換算することは不可能であるという思いに至りました。大事なことは価値を数値で表すことではなく、生態系そのものがかけがえのない重要なことなのだと理解したことです。

これまでの企業の価値というのは、どちらかというと、いかに儲け続けるかという議論が多かったと思います。でも、自然資源は有限だということが大前提になってきている今日、これからもこの枠組みを続けていくことで、果たして企業価値は増えていくのだろうかということに対しての戸惑いが最近、出てきていると思います。

これからの金融が果たすべき役割

阿部 貨幣価値に換算すること自体に疑問を感じていると聞いて、すごくうれしくなっています。そのうえで、企業の価値という言葉を使われました。ここでぜひ更家さんにお考えを披露していただければ。

更家 環境的な配慮を隠れみのでやっている企業と、まじめにやっている企業があります。価値を市場換算するときに新しい価値をちゃんと作っていただくというか、新しい価値を定義していただいて、そういう旗印を作っていくことによって、社会が変わっていく可能性があると思っています。でも、なかなか難しいところがあります。

阿部 最後にメッセージをお伝えいただければ。

いろいろな価値を日本から世界に

更家 農業とか漁業は非常に大切だと思うのですね。生物多様性にも直結します。日本で農業、漁業を新産業にしていこう、日本的な食は新しいビジネスのフロンティアだと、生物多様性と農業という意味で提言します。

松原 金融は経済の血液であると言われています。この血液がこれからの新たな社会づくりで、どう役割を果たすのかということを考えたいと思います。これからの金融が果たす役割は、担い続ける役割と、これから果たすべき役割があると思っています。

山極 日本人は、あらかじめ価値を決めてしまうのではなくて、遊びのなかでいろいろな価値を組み合わせながら、創作していく能力を非常に高く持っている民族だと思います。それを世界に示して、複数の価値に目覚めさせるということを、これからやらなくてはならないのではないかと思っています。

阿部 さまざまな視点を与えてくださった壇上の3人に感謝を申し上げて終わりたいと思います。

第10回環境シンポジウムの模様は、りそなアジア・オセアニア財団YouTubeチャンネルでご覧になれます。

主催 公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団
共催 大阪府、大阪市、大阪商工会議所、関西経済連合会、大阪産業局
後援 日本貿易振興機構（ジェトロ）大阪本部、JICA関西
関西SDGsプラットフォーム、りそな銀行、りそな総合研究所
関西みらいフィナンシャルグループ、産経新聞大阪本社

＜企画・制作＞産経新聞社メディア営業局